

スローガン 私たちが未来を変える ～安心社会に向けて～ —「連合第16回定期大会」で2020年度活動スタート—



選出された新役員



「ディーセント・ワーク世界行動デー」アクション

レセプションの様子

◆運動の領域と重点化◆

☆重点分野

- ① すべての働く仲間をまもり、つなぐための集団的労使関係の追求と、社会に広がりのある運動の推進。
- ② 安心社会とディーセント・ワークをまもり、創り出す運動の推進。
- ③ 男女平等をはじめとして、一人ひとりが尊重されてた「真の多様性」が根付く職場・社会の実現。

☆推進分野

- ④ 社会連帯を通じた平和、人権、社会貢献への取り組みと次世代への継承。
- ⑤ 健全な議会制民主主義と政策実現に向けた政治活動の推進。
- ⑥ ディーセント・ワークの実現に向けた国際労働運動の推進。
- ⑦ 連合と関係する組織との相乗効果を発揮し得る人材育成と労働教育の推進。

この大会は連合結成30周年を迎える節目の大会となることから、「私たちが未来を変える」という決意のもと「連合ビジョン」を策定しました。これまでの運動における課題の「集団的労使関係の一層の拡大」や「社会像を提起してきたことを隅々まで浸透させることなどが道半ばであること」を踏まえ、働く者・生活者の立場で、誰一人取り残されることのない「包摂(ほうせつ)」の理念の実現に向けて、運動方針が提案されました。

「左」運動の領域と重点化「参照」
また、それを支える人材確保・育成、財政のあり方にも触れられ、そうした流れに沿って地方連合会(連合鳥取)も運動の活性化が求められるものとなりました。

最後に神津里季生連合会長が、「批判もあり、課題は山積しているが、一つひとつの課題を誰かがやってくれるのを待つのではなく自らが決めて、私たちが未来を変えるのだ」と、スローガンと同様の力強い決意を述べて大会を締めくくりました。

連合(本部)は、10月10日(木)～11日(金)、新宿区立新宿文化センター(東京都)において「第16回定期大会」を開催し、今後2年間の運動方針などを確認するとともに新役員を選出しました。

特に、運動の領域と重点化では、連合本部・構成組織・地方連合会・地域協議会が一体感を持って取り組むことを大前提とし、7つの運動領域を「3つの重点分野」と「4つの推進分野」に刷新し取り組みこととなりました。

2019台風15号・19号により各地において被災されたみなさまに心からお見舞申し上げます

連合鳥取「第27回定期大会(2019.11.21)」で支援カンパを実施。ご協力をお願いします!

■特集 連合・7つの絆■ 被災地支援と自然災害に負けない!

東日本大震災から8年、熊本を中心とする九州地震、地元倉吉市を中心に発生した鳥取県中部地震から3年、昨年は各地で災害が発生し、北海道、大阪、広島、岡山、愛媛では甚大な被害をもたらしました。また、本年の台風15号、19号でも河川の氾濫、土砂災害等により尊い命が失われました。家屋倒壊や浸水、土砂災害、停電などで多くの方々が避難生活を余儀なくされ、今もなお、日常の生活に戻るため頑張っておられます。

お亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

今回の台風による災害が広範囲に及んでいることを踏まえ、連合は取り急ぎ、次のとおり体制を組んで対応をはかっており、被災地のみなさんの心に寄り添った支援を行ってまいります。

◆連合本部に「2019台風19号連合対策本部」を設置

- ・現地の被害状況等の情報収集を実施し、被災地からのニーズへの対応、構成組織・地方連合会への支援、カンパの実施等を早急に検討し実施します。

◆被害に伴うワークルールに関するQ&A

- ・「2019台風19号災害に関するQ&A(労働)」をまとめ、ホームページ上で紹介しています。

2019台風19号 連合

検索



連合鳥取から広島豪雨災害ボランティアに参加(2019.8.11~12)



連合本部「街頭カンパ」を実施(お茶の水はて)

鳥取退職者連合発／現退一致でがんばるぞ!

2020年度活動スタート! — 第27回定期総会開催 —

鳥取退職者連合(9組織・構成員2,560人)は10月1日(火)、白兔会館(鳥取市)において「第27回定期総会」を開催し、「2019年度活動の総括」を行うとともに「2020年度活動方針」

「2020年度予算」を決定しました。

総会開催に先立ち日本退職者連合の川端邦彦常任幹事を講師に迎え、「社会保障の動向と年金制度の維持発展」と題し講演を受けました。

その後、議長に山川武彦代議員(私鉄日ノ丸自動車支部退職者協議会)を選出し定期総会を開催しました。

総会は代議員他44人(代議員27人・執行部15人・オブ2人)が参加し、齋木兵治会長のあいさつに始まり、6人の来賓のみなさまより連帯と激励のあいさつをいただいた後、議事日程に従い開催され、「生き生きと安心して暮らせる社会」の実現に向け取り組んでいくことを全体の拍手で確認し、新年度の活動方針等を決定しました。

その後会場を移し、昼食・懇親会を開催し親睦・交流を深めました。



左より／連合鳥取・本川博孝会長 (一財)鳥取県労働者福祉協議会・安長章理事長 中国労働金庫鳥取県営業本部・西村裕生本部長 共済coop鳥取推進本部・松嶋浩哉本部長 次期衆議院議員選挙予定候補者・湯原俊二さん

仲間と笑顔で健康づくり!! — 「グラウンド・ゴルフ大会」開催 —

10月7日(月)、大御堂廃寺歴史公園(倉吉市)に総勢155人(選手148人・スタッフ7人)が集い「第24回グラウンド・ゴルフ大会」を開催しました。

前日まで出されていた「70%雨」の天気予報が嘘のような青空の下、選手のみなさんは2面のコートに分かれて、元気よくスティックを振りゲームを楽しみました。毎日のようにグラウンド・ゴルフの練習をされている方や、初めての方など経験度合いはいろいろでしたが、一球一球に声をあげて交流をしていただきました。中には、ホールインワンを3本も入れられた選手もおられました。

また、開会式には、石田耕太郎倉吉市長、次期衆議院議員選挙予定候補者(連合鳥取推薦)の湯原俊二さん、連合鳥取推薦の福井康夫倉吉市議会議員も激励に駆けつけていただきました。

試合結果	○団体戦 <21チーム・6組織参加>		合計打数	ホールインワン	2打	3打
	順位	組織<チーム>名				
	優勝	J P 労組・中部・A	251 打	2 本	33 本	54 本
	準優勝	自治退・県職中部A	253 打	4 本	32 本	44 本
	第3位	情報労連・西部・A	254 打	2 本	34 本	50 本
試合結果	○個人戦 <148人参加・7組織> (敬称略)		合計打数	ホールインワン	2打	3打
	順位	選手名 組織<チーム>名				
	優勝	賀須井 道夫< J P 労組・中部・A >	32 打	2 本	7 本	6 本
	準優勝	池上 一郎 < U A ゼンセン・B >	33 打	3 本	3 本	7 本
	第3位	杉本 信樹 < 自治退・県職中部A >	34 打	2 本	5 本	8 本



めざせホールインワン!!



ナイスプレー!

中部地協発／「青年女性産別交流学習会」に20人の若者が参加!

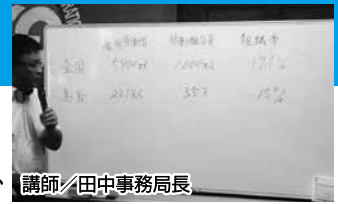
中部地域協議会は9月28日(土)、ホテルセントパレス倉吉(倉吉市)において「青年女性産別交流学習会」を開催しました。

<開会&アイスブレイク> 主催者を代表して笠見一也議長があいさつを行った後、アイスブレイクで気持ちも身体も解きほぐし、自己紹介、とんちクイズ(交流会で表彰)を各班で相談しながら協力して正解を導き出すのに苦戦していました。

<基調講演> 連合鳥取田中穂事務局長を講師に「連合鳥取政策制度要求の取り組み」について熱弁をふるっていただき、後のグループ討議のテーマ「中部地区に欲しいもの」の参考としました。各班は若者の視点で話し合い、政策制度につながる地域課題の掘起こしなど様々な意見が出され、夢や希望に満ち溢れた意見に固定観念に凝り固まった私たちにはとても新鮮な意見に感じました。

<交流会> 最初にテーブルマナーをホテルスタッフから学びました。それが逆に意識してしまいごちなくなりましたが、それでも参加者は各班とも会話を楽しみながらコース料理も堪能しました。交流会最後には、前段で行った「とんちクイズ」で1位を獲得したC班から5位までの班に構成組織の大山乳業労組から提供のあった賞品を贈り、交流と学習の両面でとても充実した取り組みとなりました。

(寄稿／中部地域協議会事務局長 山田秀之さん)



講師／田中事務局長



グループ討議の様子



C班のみなさんおめでとう!
笠見議長(右)

青年委員会発／産別の垣根を越えて交流! —「列島クリーンキャンペーン」を開催—



ガイドの説明を聞きながら散策



大山自然歴史館の見学

青年委員会は10月19日(土)、大山町にて「列島クリーンキャンペーン」を開催し、12産別より24人が参加して活動を行いました。

当日は天候が悪く、当初予定していた大山山頂の環境保全を目的とした「一木一石運動」は行うことができませんでしたが、代わりに「寂静山」をはじめとした大山の麓の散策と大山自然歴史館の見学を行いました。大山ガイドクラブの方の案内で、普段はなかなか気づけない地元の自然について学び、「この豊かな自然を守っていかねばならない」という気持ちになりました。

午後からは、大山総合体育館にてスポーツレクリエーションを行い、「ドッチビー」と「フロッカー(フロアカーリング)」を体験しました。誰もが楽しめるニュースポーツを通じて、産別の垣根を越えて交流を深めました。

今後もこのような企画を通じて、より一層仲間との繋がりを広げていきたいと考えておりますので、青年・女性のみなさまの積極的なご参加をお願いいたします。

(寄稿／青年委員会幹事 堀尾修也さん)

産別リレー



私鉄総連
におじゃまします



《私鉄総連の紹介》

私鉄総連は1947年に結成され、2019年6月現在、全国229組合、約10万人の組合員が加盟しています。

結成されてから、今日まで生活と雇用、労働条件の維持、改善と平和な社会を築く運動を一貫して進めてきました。組合員の求める課題を現実にするためには、一組合だけの運動にとどまっては難しいとの思いから、北は北海道から南は九州・沖縄までのネットワークを作り、運動の経験を交流するなかで、力を合わせ、多くの課題を克服してきました。

鉄道、バス、ハイヤー・タクシー、その他様々な職場で働く仲間のみなさんと手を携えて、私鉄総連は、今の職場、世の中を変えていきます。

今回は…フード連合をご紹介します



湯原俊二

— 緑肥の想い —

消費税が上がりました。 軽減税率も導入されました。



今年もアクアスロン
皆生大会に
ボランティア参加

消費税の財源は、目的税化し、子育て、教育、雇用、年金医療介護、生活の下支えに使い道を限定するべきです。消費税を負担してもブーメランのように生活支援で返ってくるようにするべきです。しかし、安倍政権は、増収分の半分を財政赤字の削減に使えるようにしました。安倍政権は、海外に54兆円も国民の税金をばら撒き、トランプ大統領の支援者である軍需産業に武器購入と言って多額の国民の税金を支払っています。お金の色はなく、借金で払い、消費税で穴埋めということにもなります。

軽減税率は、複雑でおかつ金額ベースでは富裕層ほど得をします。また、キャッシュレスでポイント還元といっても、お年寄りには難しいです。税は簡潔で、負担する国民に分かりやすいものでなくてはいけません。消費税率は一律にし、所得の低い方には、給付金を出す、所得税を下げる、年金支給額を上げる等の施策で負担を緩和させるべきです。

「Challenged アクアスロン皆生大会」とは障がい児・者が自分の力を最大限に発揮し、地域で暮らすことへの自信を持ち、日中活動の充実を図ることを目的として、平成19(2007)年10月8日に「第1回大会」を開催し、今年「第13回大会」が開催されました。<以下、ホームページ「趣旨要綱」より抜粋>
日本トライアスロンの発祥の地である皆生で障がいの有無、障がいの内容、年齢、性別、国籍等全てのバリアを撤廃し、共に泳ぎ、共に走り、共にフィニッシュゲートに向かいます。心と体を共に動かすことにより同じ地域に住む一員として楽しく暮らせるまちづくりの一助になることを願っています。
アスリート達の挑戦に一人でも多くの方々より声援を送って頂き共に生きるということを実感していただきたいと思います。また、人と人、自然と人が共に生きる環境に優しい大会とし、誰でも気軽に訪れていただける観光地となることを願ひ、全ての人の「Challenge スピリッツ」を尊重する大会を目指します。

“ザ・議員”

森 雅幹 鳥取県議会議員

4月の県議選では、連合鳥取のみなさまに本当にお世話になり、3期目の議席をいただきました。改めて厚くお礼申し上げます。

国会ではようやく、旧民主党系の議員が統一会派を結成しました。党が分かれたことで、我々の仲間同士でけん制しあい闘うことで、かえって自民公明を助けてきてしまいました。今後は会派をとにもすることで、与党追及が戦略的に行えるようになります。今後の国会運営に期待をしています。そしてもう一步進んで野党再編されることを強く望んでいます。



9月定例会で質問(2019.10.3)

次期衆議院選挙鳥取2区では湯原俊二さんをぜひ国会に送るべく、最大限の努力をしたいと考えています。みなさまのご協力をお願いいたします。

澤田 豊秋 琴浦町議会議員

フリースクール授業料等の補助を

不登校の児童生徒は後を絶たない現状の中、平成29(2017)年2月に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の確保等に関する法律」(教育機会確保法)が施行し、学校以外の児童生徒の居場所、学習の場としてフリースクール(鳥取県教育委員会認定の不登校児童生徒を指導する民間施設)等が整備されてきた。

しかし、授業料等が保護者にとって大きな負担となっている現状から、憲法、教育基本法、教育機会確保法等の趣旨から行政は補助すべきではと、9月議会で不登校問題を取り上げました。

また、このことは県全体の問題でもあり、伊藤保鳥取県議会議員とも連携して県議会でも取り上げていただき、子どもたちが前向きに、主体的に学習できる環境が確保できることを心から願っています。



3月定例会にて(2019.3.7)

みんなでつなぐ

私たちが未来を変える

「安心社会に向けて」

連合の「第16回定期大会」で

10日(木)、11日(金)、東京・新宿で開

催された、新年度の運動方針等を決定

しました。政治関連では、これまで

の「特定の支持政党」ではなく、「政

策を共有する政党及び政治家との

協力関係を重視する」と明記しまし

た。連合は今年11月に発足30年を

迎えます。1989年、旧社会党系

の日本労働組合総評議会(総評)や

旧民主党系の全日本労働総同盟(同

盟)、官民労組が大同団結して、「労

働者の生活改善、社会保障の充実」

と「非自民勢力による政権交代実

現」に向け発足しました。▼結成時の

組織人員は800万人、2007年

には665万人と減少、その後、2

019年には701万人と増加し

ました。パートや派遣など非正規雇

用で働く人への対応が増加の要因

と考えますが、1千万連合に向けて

の取り組みは遅れているのが現状

です。▼労働組合組織率は1989

年25.9%でしたが、現在17%（鳥取

県15%）にまで低下しています。労

働組合が過去に比べて求心力を保

つことが難しくなっているのも現

実です。組織化されている非正規の

組合員数は121万人で、非正規労

働者全体の5%に過ぎません。▼経

済、社会の構造変化が進む中では、

労働組合の活動も変化への対応力

が求められます。雇用の安定や賃上

げも成果を上げなければなりません。

すべての働く人の暮らし

の向上に向けた労働組合

を構築しなければなりません。「誰もが平等に

安心して働ける職場

環境」が必要です。

(正直者)



再生紙を使用しています